

様式 (7)

報告番号	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;">甲 保</div> <p style="text-align: center;">第 43 号</p> <p style="text-align: center;">乙 保</p>
論文内容要旨	
氏 名	石原 留美
題 目	<p>Transition of Depressive Symptoms and Anxiety Symptoms According to Parity and Associations of These Symptoms with Feelings for Involvement with Newborn Infants during a 6-Month Postpartum Period</p> <p>(産後6か月間におけるうつ・不安症状の経過と新生児と関わる時の感情との関連)</p>
<p>目的：産後6か月間におけるうつ・不安症状の経過を前向きに検討するとともに、うつ・不安症状と今回出生した児と関わる時の感情との関連を初産婦・経産婦別に明らかにする。</p> <p>方法：研究デザインは縦断的調査とした。この調査は、2017年2月から2018年7月まで2つの中核病院で出産した褥婦229名に実施した。年齢、婚姻状況、Edinburgh Postnatal Depression Scale (EPDS)などの基本的属性、Greene's climacteric scale (GCS)の心理的症状に関する項目、乳幼児に対する関わり意識の自己記入式質問票を使用した。徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会(承認番号2702)の承認を得た。分析方法はt検定、対応のあるt検定、<math>\chi^2</math>検定、フィッシャーの直接確立検定、スピアマンの順位相関係数を用いた。</p> <p>結果：5回すべての質問票に回答されたものは、121人(52.8%)から得られ、初産婦56名、経産婦65名であった。平均年齢(±SD)は、初産婦30.8±4.9歳、経産婦32.7±4.3歳で経産婦が有意に高かった(p=0.028)。初産婦のうつ症状のスコアは、産後3日で経産婦のスコアよりも有意に高かった(p=0.025)。うつ・不安症状は、初産婦と経産婦の両方で産後2週間においてピークを示したが、初産婦のうつ症状は産後3か月から産後6か月で再び増加し(p=0.029)、経産婦の不安症状は産後1か月から3か月で再び増加した(p=0.009)。うつ・不安症状の増加群と非増加群における背景の違いについては、初産婦のうつ症状が増加した群において、睡眠時間が7時間未満の割合が有意に高かった(p=0.029)。産後6か月におけるうつ・不安症状と新生児と関わる時の感情との関連について、初産婦ではうつ症状と新生児への否定的な感情が関連し、経産婦ではうつ・不安症状ともに新生児への否定的な感情と関連していた。</p> <p>考察：初産婦・経産婦ともに産後2週間でうつ・不安症状のピークを迎えるため、出産・子育ての経験に関わらず、精神的なケアの必要性が考えられる。初産婦のうつ症状における再燃の原因として、睡眠時間が関連している可能性を示したため、睡眠時間を確保できていない個別の生活状況について確認し、改善できるサポートをしていく必要がある。またうつ・不安症状は、新生児と関わる時の感情と関連しているため、初産婦は母親としての成功体験を積み重ねることができるよう支援し、うつ症状の発症を予防していく必要がある。経産婦では上の子との関りに加え新たに今回出生した児との関わりが加わるためより複雑な子育てを初めて体験している母親として理解しうつ・不安症状の発症を予防することが必要である。</p> <p>結論：産後6か月間において、初産婦と経産婦のうつ・不安症状の変化は異なっている。さらに、うつ・不安症状は、新生児との関わりに対する否定的な感情と母親の睡眠時間と関連していた。</p>	